

学修成果の評価に関する方針(アセスメント・ポリシー)

愛知文教大学では、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーに もとづき、機関(大学)レベル、教育課程(学部・学科)レベル、科目レベルにおいて、学修成果を多 角的に測定・把握して可視化することによって検証し、教育改善に生かします。検証は以下の方法により行ない、検証結果は個人情報保護に十分に留意しながら学生、教職員、関係者および社会に対して公表するとともに、検証結果を活用してPDCAサイクルを十分に機能させることにより、教育の内部質保 証を実現していきます。

1. 機関(大学)レベル:入試選抜および入学から卒業までの期間における学修成果の達成状況を検証します。
2. 教育課程(学部・学科)レベル:学部・学科における学修成果の達成状況を検証します。
3. 科目レベル:個々の科目における学修成果の達成状況を検証します。

a. アセスメントのレベル、方法、指標、三つのポリシーとの関係

	入学時(アドミッション・ポリシーを満たす人材であるかどうか)	在学時(カリキュラム・ポリシーに則って学修が行なわれているかどうか)	卒業時・卒業後(ディプロマ・ポリシーを満たす人材になったかどうか)
機 関 レ ベル	入学試験 [入試広報センター] 調査書等の記載内容 [入試広報センター] 面接、志願理由書等 [入試広報センター] 新入生に対する意識調査 [入試広報センター] 学長昼食会 [教学部]	GPA [教学部] 成績状況および単位修得状 [教学部] 休学・退学・除籍率 [教学部] 留学状況 [グローバル教育センター] 課外活動状況 [教学部] 在学生アンケート(満足度調査) [総合企画部] 図書館利用状況 [図書館] 保護者意向調査 [学長室] 出身校意向調査 [入試広報センター]	・学位取得状況 [教学部] ・卒業時アンケート(満足度調査) [総合企画部] ・卒業生アンケート [総務部] ・進路状況 [キャリアセンター] ・就職先アンケート [キャリアセンター]
教 育 課 程 レ ベル	入学試験 [入試広報センター] 調査書等の記載内容 [入試広報センター] 面接、志願理由書等 [入試広報センター] 新入生に対する意識調査 [入試広報センター] 入学前教育取組み状況 [教学部] ジェネリックスキル測定・育成プログラム [総合企画部]	GPA [教学部] 成績状況および単位修得状況 [教学部] TOEIC/HSK/日本語能力試験成績 [教学部] 在学生アンケート(DP 達成状況調査) [総合企画部] 学修ポートフォリオ [教学部] ジェネリックスキル測定・育成プログラム [総合企画部]	単位修得状況 [教学部] 卒業論文・卒業研究 [教学部] 卒業時アンケート(DP 達成状況調査) [総合企画部] 卒業生アンケート [総務部] 進路状況 [キャリアセンター] 資格取得状況 [キャリアセンター] TOEIC/HSK/日本語能力試験成績 [教学部]

科目レベル	プレイスメントテスト (英語) [教学部]	成績評価 [教学部] 出席状況 [教学部] 授業調査アンケート [FD 員会] 学修ポートフォリオ [教学部]	
-------	-----------------------------	--	--

b,個々の授業科目におけるアセスメントの方針

1.個々の授業科目の成績評価は、愛知文教大学人文学部履修規程第4章「試験、成績評価および単位の修得」の規定に則り、公正かつ厳格に行います。

2.段階評価で成績評価を行なう科目の成績評価基準は、以下のように運用します。

可否	評価	成績評価基準	GP*	評価内容
合格	S	100-90 点	4	学修目標に到達し、特に優れた成果を収めた
	A	89-80 点	3	学修目標に到達し、優れた成果を収めた
	B	79-70 点	2	学修目標におおむねに到達し、標準的な成果を収めた
	C	69-60 点	1	学修目標に到達する最低限の成果を収めた
不合格	D	59-40 点	0	学修目標に到達しておらず、不合格だが再試験受験可
	E	39-0 点	0	学修目標に到達しておらず、不合格で再試験受験不可
未受験	X		0	定期試験未受験のため成績評価対象外

* GP: GPA 算出に用いるグレードポイント(Grade Point)

3. 個々の授業科目の成績評価方法・基準はシラバスに明記し平準化に努めます。

4. 同一の必修・選択科目が複数クラス開講される場合、全クラス統一の成績評価方法・基準を取り入れます。

5. 当該学期の GPA が 1.0 未満の場合には、個別指導を実施します。教務課から本人に注意・指導を与えるとともに、保護者にも通知します。さらに必要に応じ、学長ないしは学部長が本人および 保護者と面談します。

人文学科 5 コースの特色

「人文学はじぶん学」：「じぶん」を探究する 5 コース

人文総合コース

○日本文化の基礎的な知識を修得し、読解力や問題解決能力の育成を目指す。さらに自分を言語化する力を磨くとともに、自己表現力や人間力を高める。

自分の「好き」をどんな言葉で語るのか？ 自己表現のためには自身を言語化する「ことば」を持たなくてはなりません。それには「人文学」＝「じぶん学」が基本となります。

本コースは日本文化の基礎的な知識を身に付けるところから始め、読解力や社会で求められる問題解決力を高める学びを目指します。さらに「ことば」を用いた実践的な活動を通して、自己表現力を磨きます。

自己表現するためには多様な学問分野に触れることが重要です。人文学科目(文学・歴史・思想・哲学など)を中心としつつ、様々な分野を学修することで、興味・関心を広げ、〈じぶん〉探究につなげていきます。こうした学びを基軸として、異文化理解に必須の「自文化理解」を深め、他者との調和をめざしつつ、〈じぶん〉自身をブランディングする力を身につけます。将来的には「人」に関わる職業を目指します。

グローバル英語コース

○「英語を」学ぶではなく「英語で」学んで発信する。英語をツールとして、世界で通用する「じぶん」になる。

コミュニケーションツールとしての「英語」を、基盤教育ステージ、4 技能習得ステージ、Advanced English ステージの 3 つのステージで楽しみながら学びます。

基盤教育ステージでは、レベル別クラスで会話を中心に output する楽しさを体験。4 技能習得ステージでは、レベルに適した内容とペースで Listening (聞く)、Speaking (話す)、Reading (読む)、Writing (書く)、の 4 つの力を養います。

Advanced English ステージでは、身につけた英語力を活かして、「英語で」社会的な事柄、他国の文化などについて深く学びます。

2 年次にフィリピンのセブ島での 4 週間の語学研修に参加して、英語力を磨くことができます。

中国語・中国文化コース

○多角的な視野と知見を身につけ“初習者でも既習者でも中国語が「じぶん」の武器になる。

中国語の能力だけでなく中国社会に関する知見を獲得できるように設計されています。すでに入学前に一定の中国語力を有している学生は、一部の基礎的な必修科目の履修が免除され、自身の中国語力に合せて、文化的な知見を深めつつ、さらに高度な専門的な言語運用力を向上させていくことができます。

1 年次から履修可能な短期留学プログラムをはじめ、長期留学プログラムも充実しており、現地留学により活きた中国語の獲得を推奨します。オンラインを活用した現地学生との交流 学修を通して、語学力や文化知見を向上させることも可能です。

また、HSK (漢語水平考試) の上位級取得を学修工程の一部として明瞭化することで(講義配当と取得目安: 2 年次までに 4 級、3 年次に HSK5 級、4 年次春期までに 6 級)、就職活動や進学に直結する学びを担保しています。

＜卒業後の進路＞

HSK5 級、6 級の取得によって、下記のような資格取得や登録制度において優遇されます。こうした資格を活かして、ホテル・空港・鉄道・旅行社などの観光業関係、公務員、商社など、様々な業態における人材需要に応えることができます。

- ・法廷通訳人登録制度：HSK6 級取得者。法廷傍聴、面接、登録、研修を経る必要有。
- ・医療通訳士登録制度：研修を経て、HSK6 級取得者は 1 級、HSK5 級取得者は 2 級で登録。
- ・全国通訳案内士：HSK6 級・スコア 180 点以上の場合、中国語筆記試験の受験免除。
- ・地方通訳案内士：中国語コミュニケーションに支障のない水準。地域の観光事業などに貢献したい人のための登録制度。研修を経て登録。

教員養成コース

○人文学部の教員養成課程だからこその強みで教員採用試験の合格だけでなく、学校現場で活躍できる教員養成を目指す。

「主体的・対話的で深い学び」や「個別最適化された学び」といった現在の学校教育で求められている事柄を意識しながら、グループワークや個別指導など、小規模の大学だからこそできる学生一人ひとりに合わせたサポートが充実しています。普段から学生と密なコミュニケーションを取るほか、担当教職員が毎月情報共有をしたうえで半期に一度面談を実施しています。長期休暇中の教職対策講座(補講)や、教員採用試験直前には元校長や面接官経験のある教職員によりリアルな対策指導を実施し、現役合格をサポートしています。

また、1 年次より小学校体験活動や指導案作成に基づく模擬授業演習など実際の教育現場(フィールド)での経験やロールプレイングを通した学びを重点的に行い、学校現場で求められる実践力と指導力を身につけ、教員採用試験の合格だけでなく、学校現場で活躍できる教員養成を目指します。

さらに、大学に併設する「学び合う学び研究所」でのセミナーを通して、小中高の現職教員や卒業生、学生が共に「学び合い」、地域コミュニティの中での学習拠点としての愛知文教大学の教職課程を目指します。

国際日本コース

○日本語運用能力修得のみならず、本学での学修・体験を通じて真の知日派を育成する。

日本語能力試験 N2 以上の取得を基本とし、日本語で考え、日本語で発信する科目を多く設けています。特に、日本文化に触れられる豊富な授業内容は、他の大学では得られない本学ならではの特長と言えます。また、N2 未取得者に対しては対策講座や補習を行い、早期合格に向けてサポートしています。

グローバル教育センターが主催する地域児童との交流イベントや、年に 1、2 回のバス研修旅行は、有意義な体験機会として満足度の高い企画となっています。

卒業後、就職希望者は全て日本国内での就職を実現させており、彼らの勤勉な就労態度は受け入れ企業でも高評価をいただいています。

卒業要件

[一般・社会人]

(1) 4年以上在学すること

(2) 卒業所要単位数

科目群	卒業所要単位数
教養教育科目群	50 単位以上
うち必修科目	34 単位
選択必修科目	4 単位以上
専門教育科目群	60 単位以上
うち共通必修科目	8 単位
共通選択必修科目	6 単位以上
主専攻コース必修/選択必修科目	
グローバル英語コース	コース選択必修 20 単位以上
中国語・中国文化コース	コース必修 26 単位/コース選択必修 8 単位以上
教員養成コース	コース選択必修 20 単位以上
人文総合コース	コース必修 6 単位/コース選択必修 18 単位以上
合計	124 単位以上

(1) 必修科目および選択必修科目

開設科目一覧に記載の必修科目および選択必修科目のすべてを修得すること

(4)卒業の要件による科 目の分類 <2-29 開設科目一覧 必修・選択区分欄参照>

分類	規定
必修科目	必ず単位修得しなければならない科目
共通選択必修科目	いくつかの科目の中から選択して卒業要件上の必要単位数を必ず修得しなければならない科目
主専攻選択必修科目	登録した主専攻コースの必修科目群から選択して卒業要件上の必要単位数を修得しなければならない科目
選択科目	適宜選択して単位修得する科目
必履修	単位修得の必要はないが、修了試験を受験しなければならない科目

[国際日本コース]

(1)4 年以上在学すること

(2)卒業所要単位数

科目群	卒業所要単位数
教養教育科目群	50 単位以上
うち必修科目	14 単位
専門教育科目群	60 単位以上
うち必修科目	32 単位
選択必修科目	20 単位以上
合計	124 単位以上

(1) 必修科目および選択必修科目

開設科目一覧に記載の必修科目および選択必修科目のすべてを修得すること

(4)卒業の要件による科 目の分類 <2-29 開設科目一覧 必修・選択区分欄参照>

分類	規定
必修科目	必ず単位修得しなければならない科目
選択科目	適宜選択して単位修得する科目
選択必修科目	いくつかの科目の中から選択して卒業要件上の必要単位数を必ず修得しなければならない科目

履修登録・修正・取消

- (1) 履修登録は指定の履修登録期間、履修登録変更期間に行ってください。期間内であれば何度でも変更可能です。
- (2) 履修登録は、学生用ポータルサイトから行ってください。ただし、他大学での開講科目については、教務課窓口で登録してください。
- (3) 履修登録の方法は、オリエンテーションおよび各セメスター終了後保護者宛に送付する資料で説明します。
- (4) 履修登録変更期間には、履修登録した科目の変更、取消、追加が可能です。
- (5) 授業科目によっては、教育環境の充実、教室定員の都合により、受講定員を設定する場合があります。応募者が定員を超えた場合は、抽選となります。
- (6) 履修するクラスを指定する場合があります。クラスが指定されている場合、それを変更することはできません。
- (7) 履修登録後、登録確認期間中に必ず登録結果を確認してください。登録されていない科目は履修することはできません。確認期間後は、確認済みとみなし修正は受け付けませんので注意してください。

必修科目・必修履修科目

必修科目を指定セメスター(学期)ないしは年次に単位修得しなかった場合、その後の履修に大きな影響が出ます。必ず指定セメスターないしは年次に単位修得してください。指定セメスターないしは年次に単位修得できなかった場合には、次年度以降卒業年次までに履修してください。

必修履修科目は、単位修得できなくても卒業等に影響はありませんが、必ず指定セメスターないしは年次に履修して修了試験を受験してください。

履修条件・履修制限科目

科目によっては、適正な人数やレベルを設定して授業の水準を保つ必要があります。そのため、特定の科目の単位修得や、一定の語学レベルに達していることなど履修の条件がある科目があります。また、履修制限科目とは、試験その他の手段で履修水準に達していないと判断された場合は履修不可となる科目です。履修制限については、シラバスに記載されています。履修登録の際には必ずシラバスを確認してください。

履修順位

表記区分	履修順位等の規定
科目名称に I、π,Ⅲとローマ 数字がつく科目	原則として I、n、m・Ⅲ・の順に履修してください。
科目名称に A～F とアルファベ ットがつく科目	履修の順番はありません。ただし、必修科目では A を先に履修し、単位修得してください。
時間割およびシラバスにおいて 科目名称に 1、2、3・・・という算 用数字がついている科目 [一般・社会人]	これらは同じ科目で、算用数字はクラスを表します。 同一科目ですので、複数クラスを履修することや単位修得することはできません。 例) 「Basic English 1」と「Basic English 2」は同じ科目

履修登録単位の上限

適切に授業科目を履修するため、セメスターごとの履修登録可能単位数は 22 単位を上限としています。ただし、下記の科目は履修登録上限に含めません。また、入学後の通算 GPA が 3.20 以上の場合は、次学期の履修登録可能単位数の上限を 26 単位とします。なお、その場合でも各年次の履修登録単位数 が 50 単位を超えてはいけません。

履修登録上限に含まない科目一覧

インターンシップ諸科目、ホスピタリティ実習諸科目、短期研修諸科目、e-Global Communication、卒業論文、「卒業要件に含めず」と記載された科目(2-29 開設科目一覧 [一般・社会人] 備考参照)

同一科目の複数回履修について

すでに単位を修得した授業科目と同一の名称または内容を伴った授業科目は、その後の学期において再び履修することはできません。単位を修得できなかった授業科目は、再び履修することができます。

「アカデミアゼミ」「卒業研究」「卒業論文」について

「アカデミアゼミ」(3、4 年次対象)は、研究したいテーマについての知識を身につけ、研究を進めていくためのゼミナールです。「アカデミアゼミ」では、専任教員が担当するゼミナールに所属し、4 セメスターかけて研究を行います。希望者が定員を超える場合は選抜となります。選抜は GPA によって行います。希望するゼミナールに所属するために 2 年次までの学修状況や成績が大変重要です。登録は 2 年次秋期に行ないます。なお、3 年次に進級しない学生

はアカデミアゼミを履修することができません(進級要件参照)。

「アカデミアゼミ」では「卒業研究」および「卒業論文」の作成を行ないます(「卒業論文」は希望者で許可が得られた場合のみ)。卒業研究や卒業論文の作成は、知識を得るだけでなく論理的思考や独創性などを養うものであり、大学での学びの成果を形として残すことができます。就職活動において卒業研究や卒業論文についての質問がある場合もあります。なお、「卒業論文」は卒業必修ではありませんが、大学院に進学する場合には必要となりますので作成してください。

アカデミアゼミは、以下のスケジュールで行われます。

- ① アカデミアゼミ A では、研究分野の概要や基礎的な知識、研究方法を学びます。学期末にレポートを提出します。
- ② アカデミアゼミ B では、卒業研究の計画やテーマを決定していきます。発表会で発表を行ない、学期末にレポートを提出します。
- ③ アカデミアゼミ C では 4 月に卒業研究の予定題目と要旨を提出し、それにもとづいて研究を進めていきます。学期末にレポートを提出します。
- ④ アカデミアゼミ D では研究を完成させ、発表会で最終発表を行ない、学期末に最終レポート(卒業研究)を提出します。
- ⑤ 卒業研究をさらに本格的に論文にしたい場合は、卒業論文を作成することもできます。卒業論文を執筆する場合は、アカデミアゼミ C 開講後、テーマを提出します(第 4 ゼミ期にテーマ変更、取り下げ可)。
- ⑥ 卒業研究をさらに本格的に論文にしたい場合は、卒業論文を作成することもできます。卒業論文を執筆する場合は、アカデミアゼミ C 開講後、テーマを提出します(第 4 ゼミ期にテーマ変更、取り下げ可)。

入学前に取得した資格の単位認定

本学が指定する資格を入学前 3 年間に取得した者は、所定の手続きにより卒業のための単位として認定されます。希望する場合は、申請書に必要事項を記入し、合格証など学修の成果を証明する公的な書類を添えて入学した学期の通常授業最終日まで事務局教務課に届け出てください。ただし、この制度は 2 年次・3 年次・4 年次転・編入学生、交換留学生及び社会人学生には適用されません。

種目	資格検定試験の名称	主催団体名	科目名	認定単位数	認定級位
ワードプロセッサ	日本語ワープロ検定 (文部科学省後援)	日本情報処理検定協会	教養教育科目群	1	2 級以上
情報技術	情報処理技能検定 (表計算) (文部科学省後援)	日本情報処理検定協会	教養教育科目群	1	2 級以上
英語(1)	全商英語検定	公益財団法人 全国商業高等学校協会	教養教育科目群	2	2 級以上
	実用英語技能検定 (文部科学省後援)	公益財団法人 日本英語検定協会	専門教育科目群	4 3	1 級 準 1 級
			教養教育科目群	2 2	2 級 準 2 級

種目	資格検定試験の名称	主催団体名	科目名	認定 単 位数	認定級位
中国語 ⁽²⁾	中国語検定	一般財団法人 日本中国語 検定協会	検定対策中国語講座 HSK2 級	2	準 4 級以上
	HSK (漢語水平考試)	一般社団法人 日本青少年 育成協会			2 級以上
漢字	日本漢字能力検定	公益財団法人 日本漢字能力 検定協会	教養教育科目群	2	1 級
				2	準 1 級
				1	2 級
				1	準 2 級
文書デザイン	文書デザイン検定 (文部科 学省後援)	日本情報処理検定協会	教養教育科目群	1	2 級以上
マナー	マナー検定	全日本マナー検定協会	教養教育科目群	1	初級以上
日本語	日本語能力試験 (JLPT)	国際交流基金・日本国際教育 支援協会	日本語精読入門 I	2	N2 以上

備考:(1)「全商英語検定」と「実用英語技能検定」の両方を取得している場合は、単位の多い方のみを認定し、4 単位を最大とする。

(2)「中国語検定」と「HSK」の両方を取得している場合も 2 単位を最大とする。

在学中に取得した資格の単位認定

本学が指定する資格を在学中に取得した者は、所定の手続きにより卒業のための単位として認定されます。希望する場合は、申請書に必要事項を記入し、合格証など学修の成果を証明する公的な書類を添えて学期の再試験終了日までに事務局教務課に届け出てください。また、この制度は交換留学生には適用されません。

種目	資格検定試験の名称	主催団体名	科目名	認定 単位数	認定級位			
ワードプロセッサ	日本語ワープロ検定 (文部科学省後援)	日本情報処理検定協会	教養教育科目群	1	2 級以上			
情報技術	情報処理技能検定 (表計算) (文部科学省後援)	日本情報処理検定協会	教養教育科目群	1	2 級以上			
英語 ^(1abc)	実用英語技能検定 (文部科学省後援)	公益財団法人 日本英語検定協会	専門教育科目群 ^(1c)	4 3	1 級 準 1 級			
	TOEIC	国際ビジネス コミュニケーション協会	専門教育科目群 ^(1c)	4 3 2	①860 以上 ②730 以上 ③550 以上			
中国語 ^(2abc)	中国語検定	一般財団法人 日本中国語検定協会	専門教育科目群 ^(2b)	4 3 2	準 1・1 級 2 級 3 級			
				HSK (漢語水平考試)	一般社団法人 日本青少年育成協会	専門教育科目群 ^(2b)	4 3 2 1	6 級 5 級 4 級 3 級
	漢字	日本漢字能力検定	公益財団法人 日本漢字能力検定協会	教養教育科目群	2 2 1 1	1 級 準 1 級 2 級 準 2 級		

種目	資格検定試験の名称	主催団体名	科目名	認定単位数	認定級位
文書デザイン	文書デザイン検定 (文部科学省後援)	日本情報処理検定協会	教養教育科目群	1	2級以上
マナー	マナー検定	全日本マナー検定協会	教養教育科目群	1	初級以上
日本語	日本語能力試験 (JLPT)	国際交流基金・日本国際教育 支援協会	専門教育科目群 ^(3a)	2	N2
			専門教育科目群 ^(3b)	2	N1
時事問題 ⁽⁴⁾	ニュース時事能力検定	日本ニュース時事能力検定 協会	教養教育科目群	4	1級
			教養教育科目群	2	2級
日本語 ⁽⁵⁾	日本語検定 (文部科学省後援)	特定非営利活動法人 日本語 検定委員会	教養教育科目群	1	準3級以上

備考:(1a)単位付与対象は一般学生とする。「実用英語技能検定」とTOEICはどちらかのみの認定とする。

(1b) 英検、TOEICとも2回までの認定とする。またTOEICの①～③までの基準はそれぞれ1回のみの認定とする。

(1c) グローバル英語コース主専攻の学生は「選択必修科目群」での認定とする。

(2a)単位付与対象は一般学生とする。「中国語検定」と「HSK」の両方取得している場合、同等級(「中国語検定」=「HSK」:4級=3級、3級=4級、2級=5級、準1級・1級=6級)のどちらか一方のみとする。

(2b)中検、HSKとも2回までの認定とする。また、準1級・1級はどちらか1回のみの認定とする。

(2c)中国語・中国文化コースの学生は「選択必修科目群」での認定とする。

(3a)国際日本コース「専門教育科目群」における「選択必修科目群」の「検定試験N1対策講座」を除く「日本語分野」での認定とする。

(3b)国際日本コース「専門教育科目群」における「選択必修科目群」の「日本語分野」での認定とする。

(2) 単位付与対象は一般学生とする。「1級」「2級」のどちらか1回のみの認定とする。

(3) 単位付与対象は一般学生とする。準3級以上で、どの級を取得しても1単位の付与とする。2回までの認定とする。

ただし、準3級・3級取得の単位付与は、1年次入学後1年間とする。

インターンシップ

インターンシップとは、学生が在学中に将来のキャリア(職業)に関連した就業体験を行うことであり、本学では授業科目のひとつとして組み込み、実習時間と内容を評価して、規程に基づき単位を認定しています。その目的は将来のキャリア(職業)を考える機会をつくり、職業観・就労意識を醸成することです。また自分自身の適性、持ち味を確認し、異世代とのコミュニケーションを通して社会や企業に対する理解を深める機会でもあります。キャリアセンターでは、ガイダンスを開催しインターンシップへの参加を呼び掛けるとともに、実習先企業の紹介・エントリー手続きの支援および事前研修を開催しています。また終了後にはインターンシップ参加者の体験・成果発表を行う機会を設けています。実際の就職活動までにぜひインターンシップに参加してください。

愛知学長懇話会単位互換事業

愛知学長懇話会において締結された「単位互換に関する包括協定」に加盟する他の大学で開講される科目を履修し、修得した単位を本学の単位として認定する制度です。詳しくは事務局教務課で尋ねてください。